

西暦	年号	年	月	出来事
1929	昭和	4	7	宮崎高等農林学校に附属住吉牧場の設置認可。当時の県議会議長児玉氏（住吉村出身）の尽力により現在地に決定。当時の住吉地方は海岸の松林の間に砂地の畑が散在する地帯であった。
1929	昭和	4	9	工事開始。51町8反を61,650円で購入。道路敷地9反は住吉村より寄付。建物（750坪）建設費は98,310円、その他設備費21,690円。宮崎高等農林学校の年間予算は約17万円の時代。
1930	昭和	5	3	事務所、牛舎、厩舎、豚舎、羊舎、鶏舎、農具舎、堆肥舎、寄宿舎、職員宿舎（8戸）完成。当時他では見られない近代的設備。
1930	昭和	5	4	落成式開催。式典を牛舎で、祝賀会を農具舎で盛大に挙行政した。畜産学科学学生入寮。北海道帝国大学農学部、小岩井農場等より乳牛を導入。
1931	昭和	6	3	修業年限一年の畜産練習生制度設置（畜産別科の前身）。
1931	昭和	6	12	神都電気興業KKより温室他電熱育苗施設寄贈。メロン、トマト、ナス、きゅうり、かぼちゃ、スイカ、イモ類の栽培。周辺農家に施設園芸の普及。
1932	昭和	7		場内に孟宗竹植付け。栗苗、梅苗の植付け。正門のユーカリの木植樹。
1933	昭和	8	4	梨本宮正王殿下ご台臨。宮崎高等農林学校に第三拓殖訓練所が附置。
1933	昭和	8	6	第三拓殖訓練所開所式。南米農業移住者・後には南洋渡航農業技術者の養成始まる。
1934	昭和	9	6	石川県小松製作所より25馬力トラクター購入。
1934	昭和	9	11	第三拓殖訓練所の教室、事務室、寄宿舎などを牧場内に新築。
1935	昭和	10	11	鹿児島、宮崎にわたる大演習に天皇陛下宮崎行幸。牧場にて実習等をご覧になる。
1937	昭和	12		牛の流行性感冒大流行。被害が大きかった。
1940	昭和	15	11	病畜舎新築。
1941	昭和	16	4	報国農場の管理下に圃場5ha貸与（第1農場）。教員と学生による勤労奉仕。
1942	昭和	17	4	さらに圃場5haを報国農場に貸与（第2農場）。
1944	昭和	19	4	宮崎農林専門学校附属住吉牧場に改称。
1944	昭和	19	10	当時の岡本牧場長の要望により、第2農場が牧場に返還。飼料圃場に利用される。
1945	昭和	20	8	終戦とともに第三拓殖訓練所閉鎖。第1農場も牧場に返還。
1949	昭和	24	2	ララ（LARA：Licensed Agencies for Relief in Asia：アジア救援公認団体）物資の山羊53頭導入。
1949	昭和	24	5	宮崎大学農学部設置。牧場も宮崎大学農学部附属住吉牧場と改称。
1950	昭和	25	4	牧場内南西部の耕地（4.2ha）を宮崎県種禽場に貸与し、共同研究を行う（昭和42年まで）。
1952	昭和	27	4	大学機構改革により、宮崎大学農学部附属農場住吉牧場に改称。
1953	昭和	28	8	ブラウンスイス種（12ヶ月齢）雌雄各1頭を岩手大学農学部より導入。
1954	昭和	29		改良のためホルスタイン種高等登録雌牛3頭を静岡県産の酪農家より購入。
1959	昭和	34	4	畜産練習生を母体に畜産別科設置。ジャージー種雌3頭、雄1頭を群馬県より導入。
1966	昭和	41	3	搾乳室（鉄筋2階建）と乳肉加工室を新築。灌漑施設（Ⅱの圃場）設置。現在も利用しています。
1967	昭和	42		3カ年計画（昭和42～45）の特別設備費でトラクター2台、フォーレージハーベスター、ヘイベラーその他の大型農業機械を購入。
1968	昭和	43	2	乳牛舎およびバンカーサイロ2基新築。
1969	昭和	44	3	乾草庫、家畜人工授精室新築。
1970	昭和	45	1	車両庫、育成牛舎新築。
1971	昭和	46	8	家畜育種学講座と住吉牧場の科学研究費共同研究で、黒毛和種成雌牛6頭を購入。翌年度も4頭購入し、牧場の和牛の基礎牛となる。
1972	昭和	47		林地を放牧地に草地造成する（昭和50年までの間に4.8ha）。牧場移転計画進む。
1973	昭和	48	12	寄宿舎改修（2カ年計画）。
1976	昭和	51	4	牧場移転計画中止。現在地での設備拡充が決定。
1977	昭和	52		乳肉加工室増築。
1978	昭和	53		肉用牛舎新築。これまで和牛は周年林間放牧であった。搾乳室、乳牛舎増築。
1979	昭和	54		実験研究棟（管理棟）、子牛舎、衛生室、試験牛舎、第2車両庫新築。トレンチサイロ（1基）、灌漑施設（3基）設置。
1980	昭和	55		正門から搾乳室までの道路を舗装。トレンチサイロ（2基目）設置。糞尿処理施設設置。堆肥舎新築。
1980	昭和	55	5	住吉牧場設置および牧友会創立50周年記念事業
1981	昭和	56		短期宿泊施設新築。
1988	昭和	63		大型ロールベアラー導入。
1989	平成	元		豚の飼養中止。ラッピングマシン導入、ラップサイレージ調整始まる。
2000	平成	12		乳加工施設の更新。宮崎県内で口蹄疫発生するも早急に清浄化達成。
2001	平成	13		宮崎大学農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センター・住吉フィールド（牧場）に改称。
2005	平成	17		肥育牛舎、堆肥舎（垂直攪拌式）新築。
2007	平成	19		「宮崎大学Beef」ブランド牛肉の販売開始。
2009	平成	21		新宿高島屋で開催された第2回「大学は美味しい」フェアへ参加。「宮崎大学Beef」、「大学牛乳」の販売促進。
2010	平成	22		宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター・住吉フィールド（牧場）に改称。「大学牛乳」の殺菌温度を変更して「宮崎大学Milk」へリニューアル。宮崎県内で口蹄疫発生し甚大な被害。牧場はぎりぎり難を逃れる。
2011	平成	23		ヒツジの飼養中止。
2012	平成	24		旧学生寮老朽化のため撤去。設立当初の面影を残す最後の建物がなくなる。第5回「大学は美味しい」フェアへ参加。細断型ロールベアラー導入。